

トピックス⑤

身近なものを利用して搬送する

簡易な担架のつくり方

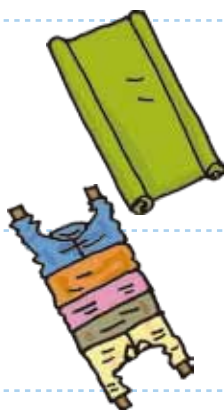


毛布と棒でつくる

- ①毛布を床に敷き、毛布の1/3の所に棒を置き、棒を包み込むように折り返す。
- ②折り返した毛布の端に、もう1本棒を置き、さらに折り返す。

毛布だけでつくる

毛布の両端を中に向って固く丸める。(4人以上で丸めた毛布の端を持って運ぶ。)



衣類でつくる

5着以上の上着のボタンを掛け、袖に棒を通す。

担架搬送での注意点

- ・急に動かすと緊張で体に余計な力が入ってしまうため、声をかけながら動かすようにしましょう。
- ・担架で搬送する時は、足を前にして運びましょう。(上り坂は反対) 後ろの人は、搬送される人の体勢や顔色などを観察しましょう。
- ・安全のため、できるだけ4人で搬送しましょう。
- ・搬送する人は、腰を痛めないように、膝の屈伸を利用して持ち上げましょう。

緊急的に、短い距離を移動させる場合は、下記の方法を参考にしてください。

その他の搬送方法

3人で搬送する



搬送する人の下に、一旦持ち上げ、頭の方を持っている人の合図でしっかり手を入れる。膝の上にのせる。同時に立ち、足を前にして運ぶ。

2人で搬送する(1)



- ①お互いの片方の手首をしっかり握って、手を組む。
- ②膝の下にその手を入れて運ぶ。

2人で搬送する(2)

頭の方と足の方に分かれて運ぶ。(足を組ませ、足の方を前にする。首が前に倒れて气道をふさがないように注意する。)

1人で搬送する



両腕を交差するか、平行にさせ、両手を持って背負う。



乳幼児や小柄な人は、横抱きにして搬送する。

4 地域における平時の支援活動

お互い顔見知りなら頼みやすいし、手伝いやすいね。



大規模災害の発生直後は、交通網の寸断や通信手段の混乱などから、公的機関などによる救助(公助)が困難になることが予想されます。

避難に支援を必要とする方への情報伝達、避難支援などを円滑にできるよう、地域の皆さんによる「支援体制づくり」と「積極的な支援」が極めて重要になります。

いざという時に備え、地域で十分に話し合いを重ね、地域の実情に応じ、できることから取り組みましょう。

まずは、「隣近所の積極的な交流」から。

ステップ1

隣近所の積極的な交流

～隣近所とのコミュニケーションを大切にしましょう～

日頃の声かけ

日常生活での声かけや見守りこそが災害時に生かされます。積極的なあいさつなど、日頃からの付き合いを大切に。

地域行事への参加の呼びかけ

お祭など気軽に参加できる地域行事や小中学生の高齢者宅の訪問活動など、日頃から地域の交流の機会を設け、広く参加を呼び掛けましょう。



ステップ2

自主防災の地域組織づくり

～地域による助け合いのしくみを作りましょう～

いざという時に円滑な避難支援が行えるよう、必要に応じて市町村にあらかじめ相談しながら、自治会や隣保班などを活用して、自主防災の地域組織づくりをしましょう。

そして、地域の実情に応じて、災害発生時の連絡体制、安否確認、避難支援などの役割分担を決めましょう。

